

児童生徒の健やかな成長を願って

# 学校だより

岡山県立西備支援学校

編集  
校長 原田 敬子  
No.12

令和3年7月19日 発行

新型コロナウイルス感染症対策に心を配りながらの1学期でしたが、無事に終わることができました。岡山県内の感染拡大を受け、学校行事をはじめとする教育活動、PTA活動などにおいて、変更を余儀なくされました。子どもたちをはじめご家族の健康管理にも気を配ってくださったこと、様々な変更やお願いに対しましてご理解とご協力をいただきましたこと等に対し、心より感謝申し上げます。保護者の皆様の支えのおかげで、コロナ禍においても、子どもたちは、それぞれの目標に向かって、工夫しながら充実した学校生活を送ることができました。

学校では、子どもたちの学習が充実・深化するように、また、コロナ禍における学習保障の一助となるように、ICT機器やツールを活用した学習活動を展開しています。新しい学習スタイルとして、ICT機器の活用や定着ができるように取り組んでまいりますので、ご協力をお願いいたします。

これから夏休みになりますが、感染症対策に配慮しながら、健康や安全に気を付けて、過ごすことを願っています。2学期の始業式に元気に会えることを楽しみにしています。

## <ICT機器を使った学び>

### [A小の取組] にこにこタイムでのZOOMの活用

1年生から6年生まで全員での集会活動を1か月に一度行っています。全員が一堂に会することができない今年度は、各教室をZOOMでつなぎ、一緒にゲームやクイズをしたり、先生の話の聞いたり、手遊びをしたりしています。7月は、「夏休みのくらし」について先生の話の聞いた後、5・6年1組の掃除の取り組みの様子を紹介した動画を見ました。子どもたちが、机を運んだり、モップでまっすぐ床をふいたり、上手に仕事をやり終えるたびにそれぞれの教室から拍手が聞こえてきました。動物シルエットクイズは、答える学年ごとに画面が切り替わります。クイズに夢中になりながらも、画面の中に映る友だちの姿を見つけて喜んだり、自分が映ると嬉しそうに照れたり、画面を通して見える友だちや自分の姿に釘付けになっていました。活動場所は離れていても、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。



### [A中の取組] 生活単元学習（調理実習）でのタブレット活用

A中2年生は、「夏野菜を育てよう」という学習に取り組みました。コンテナや一輪車を使って肥料を運んで土作りをし、プランターに苗を植えました。教室前のプランターで、大きな実をつけたトマトやピーマンを収穫した後、調理実習を行いました。新型コロナウイルス感染症対策として、調理室に入る人数を限定し、自分のピザトーストは自分で最初から最後まで調理をしました。調理室と教室をMeetでつなぎ、待機している生徒は調理している生徒の様子を見ました。生徒たちは画面に映った友だちの様子を観察し、「〇〇くん、じょうずだね。」「おいしそうだね。」と発言し、包丁の使い方や工夫したトッピングなど、安全に調理できている友だちや、美味しく作ることができるように工夫している友だちを見ることができました。そして、自分の番になった時には、友だちの様子を見て学んだことを生かすこともできていました。みんなで一緒に調理をすることはできませんでしたが、お互いの様子を見ることで、一体感を感じたり、友だちの良さに気付いたりすることができました。



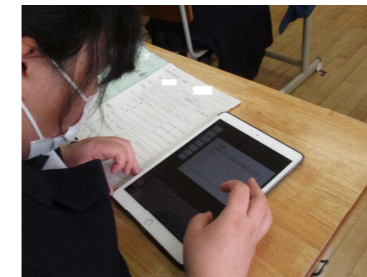
### [B部門の取組] 授業でのICT活用

iPadや視線入力、リモコンリレーを使ってミシンを動かすなど、ICT機器を活用した授業作りに取り組んでいます。その中でも、VOCAというコミュニケーション機器は欠かせないものとなっています。朝の会では、活動内容に応じて、様々の種類のVOCA3～5台を利用して、司会をしたり、曲を流したり、友達の名前を呼んだり、給食の献立を発表したりしています。それには、必ず友だちや先生が応えてくれます。「はい。元気です。」「すごいね。」「係の仕事、ありがとう。」など、教室がみんなの笑顔であふれます。自分から進んで、自信を持ってVOCAを使ってのコミュニケーションを楽しんでいます。



### [A高の取組] 現場実習壮行会、報告会

高等部2・3年生は、校外の事業所や施設等で実習を行います。実習の期間や内容は生徒によって違い、面接で一日の流れや作業内容を確認し、各自で実習の目標を決めます。その後、学年全体で行う「実習壮行会」に向けて、iPadで自分が行く事業所を調べたり、プレゼンテーションを自分で作成したりして準備しました。壮行会では、自分が実習に行く場所や仕事の内容、目標を発表しました。また、実習後の「実習報告会」では、実習中の写真を入れたり、頑張ったことを入力したりして作成したプレゼンテーションを使って発表しました。自分で操作して発表ができるようになり、堂々と話す生徒が増えました。また、同じ形式に入力することで、見通しをもって、自分から作業に取り組めるようになってきました。



### <お知らせコーナー>

#### ◇学校運営協議会

学校と地域との連携を深め、地域の中で子どもたちが豊かに成長していけるよう、今年度、学校運営協議会を設置しました。6月25日(金)、第1回目の会議を行い、学校での子どもたちの学習成果を地域で活かすための方法や、学校からの効果的な情報発信などについて、幅広く助言をいただきました。

<学校運営協議会委員> ※敬称略

笠岡西中学校・主任児童委員 秋田悦子、倉敷障害者就労・生活支援センター所長 大島美栄子、E35韓国語教室韓国語教員 金振鎬、笠岡市大井公民館館長 東馬場省吾、環太平洋大学特任教授 中野隆重、子ども療育センター笠岡学園園長 中野年朗、井原市社会福祉協議会 橋本恭子、Farm未来を信じて代表 柚野裕正、PTA会長 高橋公子

### ～ ICTの推進 ～

#### ◇家庭と学校をつなぐ

#### G-Works for education「classroom」の活用

・児童生徒は、終業式や各学部部門での活動で、Meet（遠隔のTV通信）を活用しながら、離れた教室でも友だち同士で学び合いをしています。  
・家庭と学校をつなぐため、G-Worksの活用をお願いしています。4月には新しいアカウントを配付しました。全家庭でログインしていただき、しっかり活用していきたいと思えます。1学期は、Classroom（掲示板）に給食の献立表や、せいび祭で販売するの中学部手芸班の商品の紹介をしましたが、今後は、学校からの配付物をClassroomに添付していく予定です。